平成 28 年度　第 2 回　タウンミーティング　議事録

【開催日時】平成 28 年 12 月 12 日（月）午後 1 時 30 分～3 時
【会　　場】藤崎青年館
【申込団体】習志野市社会福祉協議会　藤崎支部
【参加者数】43 名（市長、市職員を除く。）

- **習志野市社会福祉協議会藤崎支部　代表あいさつ**
- **市長あいさつ**

今日はこのような機会を頂きまして、誠にありがとうございます。改めまして習志野市長の宮本です。

「藤崎を見捨てないで。」なんてとんでもないですよ。藤崎の皆さんには本当に支えて頂いています。これも後でお話しますが、藤崎の地区の特徴は、やはり一番は JR 津田沼駅に近いという部分ですかね。そういう部分で、あまり皆さん実感ないのかもしれないですけれど、どれだけ便利が良いかという話も含めてお話させていただきます。それぞれの町に、それぞれ愛着はあるとは思いますから、皆さんいろいろな気持ちをお持ちかとは思いますけども、今日帰るときに、藤崎に住んでいて良かったという思い、習志野市に住んでいて良かったという思いになって頂けるようなタウンミーティングにさせていただきたいなと思っております。

このタウンミーティングの目的ですが、一番の大きな目的は、情報の共有というところにあります。今、情報化社会ですよね。皆さま、それぞれ携帯電話を持ってらっしゃると思いますけれど、昔は、携帯電話なんて当然なかったわけで、私がちょうど二十歳くらいのときから、携帯電話が肩掛けで出てきたというくらいですから、それくらい、この携帯電話というのは、ものすごく最近の話ですね。

昔は情報というものは、主にテレビ、ラジオ、新聞から、皆さんそれぞれ入手していましたよね。例えば、新聞を見ると、もちろん印刷された文字が書いてありますね。今日、皆さんがお手元に持っている紙も、いわゆる印刷されたものですね。でも、昔は違いましたよね。もっと手書きの文章が多かったですよね。もっと言えば、ガリ版でグルグルグルグル、自分で手回して作っているくらいでしたから、それほど情報っていうものが入手しにくかったですよね。それが、今やいろんな情報流れていますね。今、皆さんが携帯電話をお持ちでしたら、携帯電話一台で、世界中に発信できるようになりました。これ、すごいことなのです。放送っていうのは、「放つ、送る」って書きますけども、昔も今も、放送するためには特殊な免許が必要で、もう大変なものなのです。つまり、放送というのは、その情報を、正しい情報を流している分には良いですけど、間違った情報を流してしまったら大変なことになるから、すごく厳重に管理されて、免許が必要なのです。昔は放送局をジャックする、放送局ジャック、なんていう不穏な事も

あったくらいですから。

ところが、今はそんなことしなくても、ここから、僕がピピピピとやれば、すぐにあっという間に世界中に情報が発信されます。ですから間違っている情報も発信できてしまうのですね。ところが、間違っている情報の発信というのは、まだそういう意味では良い方です。間違っているということが分かっているからです。私たちや皆さんにとって一番困る情報は、正しい情報か、間違った情報か分からない情報、これが一番困る。すごく正しそうなことだけど、実は間違っている。絶対間違っていそうだけど、実は正しい。これが分からない情報が非常に多い。最近、子どもたちやお孫さんが PPAP の話をしませんか。ピコ太郎っていう人が、踊っているやつですね。アップルがあって、ペンがあって、それをくっ付けると、アッポーペン。アップルペン。これは何となく分かりますね。もう一つパイナップルとペンがくっ付いて、パイナッポーペンです。それがくっ付くとペンナッポーアッポーペンと言っているのです。もう訳が分からないですよね。これが世界中に今、どれくらい配信されているかご存じですか。1 万、2 万、違います。10 万、違います。100 万、違います。10 億回です。10 億回。世界の人口が 60 億、今 70 億超えと言われていますから、世界の人口の7人に 1 人がそのペンナッポーアッポーペンを見ている。そういう時代なんですよ。

私たち行政というのは、正しい情報を発信するのが役目の場所です。皆さん方に直接、私の方からいろいろな正しい情報、そして皆さんから逆に伝えたい情報を交換するために、このようなタウンミーティングという場を設けさせてもらいました。

今、情報の混乱ということの中で世界中を見渡すと、混乱だけでなく戦争すら起きていますよね。日本は、今、皆さん方のいろいろなご苦労、また皆さん方のご努力で今、とても平和であり、これが常識ですけれど、世界中に行くと、小さい頃から 20 年も戦争やっていると、もう敵の命は人間だと思わなくていいって本気で思っている人たちがたくさんいるわけです。じゃあ、日本がこの先、そういうことに絶対にならないかって言ったら、実はそんなことはなくて、やはり日頃から皆さんがそれぞれの努力を積み重ねないと、こういった平和っていうのは持続しないのですね。そういった観点も含めまして、タウンミーティングを企画させて頂いております。

それでは皆さん、お手元にレジュメがありますので、これに基づいてお話をさせて頂きたいと思います。今日は「少子高齢化社会における習志野市について」ということでお話させて頂きます。まず、本日の内容ですけども、まず習志野市の概要について説明いたしまして、次に習志野市の人口の概況と推計、未来はどうなっていくのかについてお話したいと思います。続いてこれからの社会がこういうことに伴って、どういう風に変わっていくのか。そして、それを踏まえた習志野市は、どういう風にしていこうと思っているのかについてお話させて頂きます。それでは、まず前段として、習志野市の概要についてお話させて頂きます。

まず、習志野市の概要をご覧ください。皆さん、習志野市って大きいと思いますか、

小さいと思いますか。小さい。そのとおり。良かったです。じゃあ、人口は多いと思いますか、少ないと思いますか。多いですね。54 市町村中で 10 番目です。じゃあ、人口密度はどう思いますか。高いか、低いか。高いですね。3 番目ですよ。一番、人口密度が高いのは浦安市、2 番目が市川市、3 番が習志野市、4 番が松戸市、5 番が船橋市、船橋市より人口密度が高いんです。すごいですね。人口密度が高いんですよ。ここで簡単に言うと、隣は船橋市ですが、船橋市と習志野市を比較するときに、一番簡単なのは、船橋市って習志野市のなんでも 4 倍なんです。面積も 4 倍、人口も 4 倍、財政規模も 4 倍、人口に比例していますから 4 倍、ということです。ざっくり言うと、船橋市がいろんなことやりましたと言って、それの 4 分の 1 と比べて習志野市がどうかということです。そのように見て比べると、大体同じです。お隣同士ですから。ただ、決定的に違うのは、船橋市の方が東京に近いです。東京に近いので、いろんなことで、船橋市の方が賑わいが大きいですよね。

習志野市って、どうして「習志野」っていうの、って、よく聞かれるんです。4 年前に若手の市長さん 4 人で座談会をやりました。その時の参加が私と千葉市長の熊谷さんと鎌倉市の松尾市長と横須賀市の吉田市長、この 4 人でした。この 4 人の会の名前を付けようっていうことで、「何の会がいいですかね」って話になったんです。その時の一人が「東京湾を囲む会はどうですか」と言いました。そしたら鎌倉市長さんが、「あの、私たちは東京湾に面してないんです」と。そうなんです、相模湾なんですよね。次に私が「総武横須賀線の会はどうですか」と言いました。そしたら、鎌倉市長が私にそっと、「あの一、習志野市さんはどこの駅ですか」って。私はすぐに「津田沼」と答えました。そしたら、「津田沼って、津田沼市じゃないんですか」とおっしゃったんですよ。私が「あー、やっぱり、習志野市の名前って知られてないんですね」って言ったら、千葉市長さんが、「でも、いいじゃないですか。自衛隊があるんだから」と。ね、皆さんご存知のとおり、自衛隊の所在地は船橋市です。しかも、自衛隊の敷地の7割は八千代市なんです。習志野市は接しているだけなんです。じゃあ、「それなのになんで習志野っていうのですか」って言われて説明に困ったんです。最近では、こういう風に言うようにしてるんです。アルファベットの Z、ありますよね。ゼットの斜め。これが習志野市ですよ。で、ここ（下辺）は海、で、これ（上辺）が習志野原。習志野原。皆さん、船橋市内に習志野っていう駅があるのを知っています？新京成線です。津田沼が斜め線の真ん中、ここです。習志野市って、こう斜めに、東西に広くって、北東部のこの位置が東習志野、まさに習志野市です。他、北習志野とか習志野台とか西習志野ってありますけど、みんな船橋市です。習志野の駅はどこにあるかと言われたら、まさしく真ん中にあるんです。そこに向かって新京成線が北上している。だから習志野駅は船橋市なんです。こういう説明をすると、なるほどね、要するに習志野って付いている所で、地名としては、東習志野だけが習志野市。東側にある。西習志野がこの辺で、新習志野って駅が下の方（南西）にありますけど。で、ちなみに、「Z」の縦の幅は 6 キロ、横の幅は 9 キロです。で、まあ、9×6 は 54 平方キロですけど、斜めに帯状に入っていますか

ら、習志野市面積は 21 平方キロ。で、左脇が船橋市、右脇が千葉市、上が八千代市となり、先ほど言いましたとおり、船橋市ってなんでも 4 倍。八千代市は、2.5 倍です。千葉市の広さは、13 倍です。千葉県内で広いのは市原市。習志野市の 18 倍です。習志野市の 18 個分ですよ。いかに習志野市がコンパクトかっていう話です。人口が 10 番目に多いですから、なので人口密度は 3 番目っていうことになります。ちなみに、千葉県の広さは 5 千 2 百平方キロです。5 千 2 百平方キロ。で、習志野市の広さが 21 平方キロ。で、割り算しますと、千葉県の広さは習志野市の 250 個分です。まあ、とにかく習志野市は小さい。コンパクト。で、人口密度が高いんです。

次の紙、習志野市の人口の概況と推計ということですけど、この時は、昭和 25 年、津田沼町でした。そして昭和 29 年、習志野市がオープンして、当初は 3 万 2 千人の町でした。それが昭和 40 年代から 50 年代にかけて埋立てが造成ありました。それに伴って大きく人口が増えました。そして、近年は横ばいから増加傾向の中で、奏の杜地区が誕生したことによって、ここだけで 7 千人増えます。ただ、市内間の移動が結構多いんですよ。市内間の戸建てからマンションに移る人が結構おりまして、だいたい 4 割くらい。多いんですね。ですので、純粋に増えた人口は 7 千人の 6 掛けですから、4 千 2 百人という形になります。この4月に人口が初めて 17 万人を超えました。それから先のことがこの下に書いてありますけれども、緩やかに減っていきます。ただ、この減り方はほんとに緩やかです。

次のページ、平成 25 年から平成 53 年までということで書いております。ご覧のとおり、いわゆる急増した時に比べると、ほんとに緩やかに減っていくという様子が見られます。その下、年齢区分です。その年齢区分につきましては、平成 25 年から平成 53 年にかけて 1 割、ご高齢の方が増えていきます。子どもの数は微減という形になります。でも、その子どもたちがやがて大人になっていくわけですから、人口が減っていくという形になります。ちなみに年代の話でいいますと、今、一番多い世代っていうのは昭和 47 年組、昭和 47 年度生まれ。はい、わたし、そうなんですけど、僕は昭和 48 年の早生まれ、1 月生まれなんですけど、昭和 47 年度生まれの人が、習志野市内の中で、唯一 3 千人をこえています。その他は、みんな 3 千人未満です。ちなみに今、生まれてくる子どもたちの平均は 1 千5百人です。ですから、私たちの半分ということになります。で、私たちの次に多い世代というのは、当然、私たちのお父様お母様、ちょうど皆様くらいの世代ということになります。2 千 5 百人前後です。ですので、単純に言うと、大きい山、人口の山がこうあるわけですけど、ここは大体 40 代、で、少し小さめの 60 代から 70 代、で、この小さい山が 0、10 才という風になりましょうか。で、当然、年を重ねていきますから、私たちが 25 年後になると、年齢の軸が左側にスライドしますから、この大きな 2 つの山が全部 65 才以上ということで、いわゆる超高齢社会となるのです。

この高齢者人口を支えるのは誰かという話ですが、皆さん、年金の話などでご存知の通り、日本は、15 才から 65 才までの生産人口が、1 才から 14 才まで年少人口と 65 才以上の老年人口を支えるという仕組みになっています。当然、生産人口が多ければ多いほど、支える負担は軽くなるわけですけど、これからは老年人口がどんどん多くなる。生産人口はそんなに多くなりません。そして、逆に年少人口はどんどん小さくなっていく。統計上の言い方で、従属人口っていうものがあります。その生産人口が支える人口のことを従属人口といいます。その従属人口の比率が今は 53 パーセントくらい、これどういう意味かっていうと、イメージで言うと、生産人口が納めた税金の内、53 パーセントが税金を納めないとされる人を支えているということになります。逆に言うと、47 パーセントは、生産人口の人たちが自分達のために使うということになります。これが 60 年後になると、99 パーセントになります。1 パーセントしか、生産人口が納めた税金の１%しか自分のために使えないということになります。当然、足りないですよね。足りないとどうするかっていったら、借金しかない。要するに将来の生産人口に、お金を借りるしかない。だから今、借金の残高が、これだけ借金、借金、借金って大問題になっているのに、どんどんどんどん増え続けているのです。そして、ちょうど 60 年後に、今、日本の、言われている借金は 1 千兆円から、1 千 5 百兆円とも言われている借金が1京円になると言われています。1京っていうと、1 千兆の 10 倍ですよ。1 京です。現状変わらなければ、借金がどうしても増えていかざるを得ない。今までと同じサービスを継続しようとすると、当然、お金が足りません。現状そのままで単に人口区分を見ると、税収が入ってこないのです。次のページで、これからの社会ということで、図示してあります。

国、県市町村の需要というふうに書いてありますけれど、需要とは皆さんからの求めですよね。皆さんがこうして欲しい、ああして欲しいという要望です。これはこれからドンドンドンドン大きくなります。というのは先ほど言った情報化社会が多様性を生みます。今まで分からなかったことが分かりますから、分かるということはそれに応じて、いろんな考え方が出現します。ですので、市役所もそうですが、昔は限られた情報の中で、選択肢もある程度決まっていた情報を基にした仕事がメインだったので、仕事量はどんなに増えても対応できます。これは市役所の特徴。でも逆に、仕事量が少なくても、種類が多くなってしまうと、とたんに困ってしまうのが市役所の特徴。要するに一人で一つのことに対応しなくてはならないから、当然効率が悪くなりますよね。そういった意味で、今、多様化していることというのは、すごくバラエティに富んで良いっていう反面、そういった困ったことも起きているという状況もあります。

加えて、最近、公共施設の再生問題という言葉を、いろいろな所で聞くと思いますけども、特に、高度成長期に、習志野市の人口がドーンと増えた時にいろいろな物を作りました。その中には、当然、学校も入ります。そういった校舎とか、一つ一つの建物が、みんな老朽化していきますから、それをまず耐震化しなきゃいけない。それはお陰さまで 26 年度に終わりました。でも、耐震化したから終わりってことじゃなくて、今

度は古くなっていく物を替えなきゃいけないですから、この更新作業が高度成長期にやった分だけ必要になります。当然、作ったものを壊して、また同じものを作らなきゃいけない。とてもじゃないけど、今、言ったように、お金が足りなくなります。お金が足りなくなる中で、いろんな優先順位ありますよね。人命にかかわる必要なサービスをはじめ、これは絶対に削れませんというものから、順番に優先順位を突き詰めていく中で、今、公共施設再生計画があります。いわゆる、建物を集約して、なるべく維持するため、経費、コストを安くしよう。あるいは、民間の力をなるべく使って、その経費を効率的にしよう、としている。

民間を活用するという意味は大きく 2 つありまして、1 つは専門性を活かしてもらいたい。民間企業は専門家が多いですよね。市役所っていうのは一般的、全部、総合です。まさしく、ジェネラルですよね。民間企業は、一つの事業を専門的にやっていますから、公民館だけを管理することができるとか、給食だったら給食だけを管理することができる、そういった専門性を他市や他県で展開していくことで経費を下げています。これが一つ。もう一つは、民間企業は納税します。行政は何で成り立っているかといえば税金です。税金は、どうやって発生しているかって言えば、民間の動きです。民間と言った時に、その「民」っていう字は、人を意味しますが、人には大きく 2 つあります。まず自然人と言われる個人。それと、法律で認められた法人と、2 つあります。会社にしても人です。こうした人と人との繋がりの中で起きた物のさまざまな出来高によって税金が算出され入ってきます。だから、今日ここにいらっしゃる皆さんが全く働かない状態で、買い物もせず、収入も全くなく、土地も家屋もなければ、税金は発生しませんから、そもそも行政は成り立ちません。そういった中で、今、安倍総理が総活躍って言っている理由は、税率を下手に上げてしまうと、例えば、買い控えが起きたりして、経済そのものが冷え込んでしまう可能性があります。上げ下げの具合というのは、非常に難しいです。でも、民間から税金が入るという大原則だけを採れば、総活躍って何かというと、とにかく皆に活躍してもらう。そうすると必ず何かが生まれて、それが経済に結びついていって、循環を起大きくしたいという考えがある。それは全く健全です。税率を高くする必要がなくなります。

最近、よくこの話をするのですが、今日、ここに来るときに、皆さん、靴を履いてきましたよね。そうすると、靴底が減りますよね。そうすると、次の靴を買うきっかけに近づいているのです。皆さん、服、着ていますよね。そのお洋服だって、外に出て、何回も着ていると、やっぱり劣化してくるから、当然、次には新しい物が欲しくなる。外出するってことは、そういった効果が実はあるんです。まさに、人が動くということは、必ずそういった消費活動を伴います。消費しないと生産はありません。消費がないと作る必然がないので生産がない。消費があって初めて生産が生まれて、そこで働く人つまり雇用が生まれて、その中でお給料が支払われて、皆さんがそれぞれ着たり履いたりしている靴、誰かが作っています。そこには必ず社員がいて、家庭があって、子どもがいます。そういった方々の生活を、物を買うことによってお金を回して、そして豊か

にしていこうというのが、まさに今言っている「総活躍」という話です。

私はその言葉を「賑わい」という言葉に替えています。最近、「賑わい」って何なのと、よく聞かれます。ストレートに言えば、経済循環をドンドン作っていこう。それによって行政がある。その行政は何をやっているのというと、皆さんに対して、公平、中立、公正に行う公共サービスを行っているわけであります。納税した以外の部分については、皆さんそれぞれの夢の実現に使って頂きたい。それでまた次の仕事ができて、またいろいろな物が循環をしていく。そういった中で、先に答えを言ってしまいましたが、これからの社会は、ニーズは大きくなっていくんですけど、税収に関しては、人口減少社会、少子高齢化社会の中で、どうしても小さくなっていかざるを得ない状況です。

習志野市自体は恵まれた立地条件で、東京に近く、30 分で行けますから、人口も伸びている。17 万人超えました。他の市町村は散々たる状況です。千葉県自体は 4 千人減っていますし、日本全国でいうと 20 万人も減っています、この 1 年で。習志野市 1 個分以上の人口が減っているのです。先ほど言ったように、人口は、活力、いわゆる「賑わい」ということですから、人口が減るということは、そのまま税収が減っていく、経済循環が減っていくということになります。習志野市とて、非常に財政状況が良いと言われていますが、国・県の補助金がなければ、全然やっていけない。習志野市の、自分の税金でどれだけ運営できているかという自主財源比率は 6 割から 7 割。ということは、30 パーセントから 40 パーセントは国・県のお世話になっています。その国・県が、ものすごい勢いで減少していますから、この 30 パーセントから 40 パーセントも急速に減っていくかもしれない。習志野市は人口も増えて、税収も上がっているのに、なんで公共施設を削っていくという方向なのかと。それは今言ったように、国・県の状況が、市の想像をはるかに越えているということです。

次のページですけど、これからの社会のイメージといたしまして、とにかく需要は大きくなってくる。逆に資源は小さくなってくる。そのために財源確保しなきゃいけない。「歳入と歳出、常に一体にやっていきますよ」、ということが書いてあります。これが、その下の「まち・ひと・しごと創生、人口ビジョン・総合戦略」に繋がってくるのですが、いかに「賑わい」を喚起して、行政としての工夫をすることによって、新たな財源を生み出すかということに、今、頑張ってやっております。財源っていうのは、よく節水とか、水の話をするときにね、水源の話ありますね。全く同じ考え方です。降ってくる雨が少ないのに、どうやって分かち合うの、という話といっしょで、お金がない、少ないのにどうやって分かち合うのか。それでは、分かち合えない部分は借金で対応、つまり未来の人口に甘えるということになります。それも一つの制度ですが、どう考えても少子化社会、というなかで、あまり未来に任せられないですよね。人口が減っていくわけですから。そういった中で、これからどうやっていこうかという事を「まち・ひと・しごと創生、人口ビジョン・総合戦略」で考えております。

人口のことが書いてある次のページです。人口の動向分析からみた習志野市の課題、4 点あります。習志野市の場合は自然増減よりもはるかに社会増減に影響されます。自然増減というのは、生まれた、亡くなったということ。社会増減は引っ越しです。転出・転入です。習志野市の場合は奏の杜で増えました。奏の杜はそれまで畑でした。35 ヘクタールあるのですけれども、畑というのは市街化調整区域という、いわゆる開発を調整する地域。自然を守るという位置づけもあるのですが、その時は規制されているわけです。建物造っちゃいけませんということですから、この地権者の払う税金も少なくてよいわけですよね。どうしてかといいますと、活用できないのですから。それが、奏の杜になって、市街化調整区域から外れて、市街化区域になって、今、いろんな開発が行われています。開発が行われていくと、宅地並み課税といって、税金の計算の仕方が一般の住宅の計算の仕方と同じになります。あそこは、駅のすぐ周辺ですね。そうすると、固定資産税がものすごく高くなります。地権者としては当然その税金を払わなくてはいけないから活用を考えるわけですね。地権者自身のことを考えながら、そして、習志野市の税収を考えながら、一体的に行ったわけです。そして、その結果、農地だった時に 35 ヘクタールで約 1 千万円だった税収は、来年あたり優に約 10 億円でとなる見込みです。10 億円ですよ。1 千万円から 10 億円。最終的には 15 億円までいくと言われています。これから毎年です。ただ、もちろん、インフラ整備や維持、ゴミ収集や子ども対策などの行政サービスもありますから、それに大体 5 億から 10 億円掛かると考えています。ですので、習志野市に対する純粋な税収増は年間 5 億から 10 億と考えています。ここで皆さんに考えてほしいのは、この 5 億から 10 億というのは、習志野市全域に使うのです。習志野市の税金ですから、習志野市全域に使うのです。奏の杜だけに使うのではないです。だから、よく、奏の杜ばっかりっていう意見が多ですけど、そうじゃない、逆に奏の杜がそういう形になることにより、全域に税収が分配されるのです。ここの所はぜひご理解を頂きたいと思います。

次のページに年齢別の、階級別の人口の状況が書いてあります。習志野市は理系の大学が 3 つありますので、市外から入学する子どもたちが一気に転入してきます。そして、卒業すると、一気に転出していきます。なので、このボンって、山がありますね。ちょうど、20 才くらいのところで入ってくるのですが、逆に、25 才から 29 才のところで一回出ていく方が多くなるんですね。これはそういう意味です。ところが、少しまた上がってくるのは、これは転勤などによって、習志野市に家を構える方、あるいは、都心に出勤する人が、習志野市を選んだ方ということで、この 30 才から 34 才にかけてまた転入する人が増えてくる。それから 35 歳あたりから逆に 0 を下回っていますね。これは習志野市から出て行っているということですけど、これなんで出ていくかというと、大体、この 30 歳から 34 歳までに入ってくるという方は、だいたい 1 人ないし 2 人で入ってきます。ところがそこで、結婚をして、子どもが産まれたりすると、家族が増えます。住居が狭くなります。一戸建てが欲しくなります。といった時に、習志野市では価格が

高いから、なので郊外に行く。あるいは、もっと便利な所で、リーズナブルなマンションがあればそこに移る、こういうのが大体の傾向なんですね。前半、習志野市にワーッと入ってくるんだけど、ちょっとずつ出ていくのが傾向となります。これを県外・県内で見たのが下のグラフです。これを見て分かるように、マイナスっていうのは、出て行っているということです。習志野市民が東京に転出しているというのがこのグラフのまとめになります。上に出ているものが、入ってきているところですけど、東京以外から移り住んでくる人が多い。そして、出ていくときは皆、東京に向かって出て行っているというのがこの図になります。足し算・引き算で結果的に少しずつですけど、習志野市はまだ増え続けている。入ってくる人の方が多いという状況です。

次のグラフ、17 ページは、先ほど人口のことを言っていた時にお話しした状況、平成 25 年は 40 代が多くてという話が、平成 53 年に、その 40 代が 65 歳以上になっていくことによって、逆ピラミッドになってくるということです。それを折れ線グラフにしたのが、下のグラフです。19 ページに先ほどの従属人口の話が載っています。先ほど 53 パーセントと言いましたけど、ごめんなさい、これは平成 20 年くらいの話で、今 28 年だから、直近でいうと 27 年の数字ですね。27 年で 64.8 パーセントあるんですよね。60 年後に 99 パーセントと言いましたけども、50 年後の平成 72 年にはもう、96.3 パーセントになってしまうというが現状です。生産人口が納税した税額の 3.7 パーセントしか生産人口に還ってこないといった状況になっていく。よく、お神輿で例える例もあります。お年寄りを 3 人で 1 人支えるとか、2 人で1人支えるとか。簡単に言うと、2 人以上いると疲れたら交代ができますね。「次はあなたの番ね」って交代ができるけど、1 人で抱えると交代する人がいないですから、そのことだけに集中することになりますから、先ほどの話しで言うと、経済活動ができなくなるということです。そういった余裕がなくなってきますから、当然、景気もどんどん下振れしていくのが予想されるということです。その下に人口のシミュレーションが書いてありますけども、その人口のシミュレーションは、16 万人以上ということですから、先ほどから言っているように、習志野市が激変するという形ではないと考えております。

その次のページ、21 ページになりますけども、人口ビジョンです。私たちとしてみれば、平成 53 年に総人口 16 万人になると予想していますけど、「16 万 4 千人以上は絶対に確保しようよ」、と考えています。それには先ほどちょっと触れた、いわゆる定住人口をしっかり確保しよう、ある程度成長したときに、市外に転出しないようなまちづくりを何とかしていきたい。そのために子ども施策、いろんな施策ありますけど、いろんなことをやっていこうということでございます。習志野市が考えた総合戦略がその下に書いてあります。習志野市の特性や強みを最大限に活かした取り組み、これは、今、とにかく習志野市の特徴をお話しました。皆さん、大抵のことはご理解いただいていると思いますけど、例えば人口密度の話をしたときに「ああ、そんなに高いの。」という反

応があり、もっといろいろな驚きが結構あるのです。そういうことを抱いて頂いて、皆さん一人ひとりが、「住むのだったら習志野がいいよ」と。その一人ひとりが活力、賑わいに繋がっていきます。だから行政だけがやるのではなく、皆でそれをやっていこうということが、ここに書いてございます。

次に賑わいの活性化ということですけれど、賑わいの話はいろいろさせて頂きました。「賑わいの活性化」と書いてある紙、25、26 ページになります。市民活動の中心となる拠点の「賑わい」ということで、ここでは主に駅前の話が書いてあります。駅周辺、特に、JR 津田沼駅が広域拠点ということで考えております。下の表には、谷津、京成津田沼、京成大久保、実籾、新習志野が書いてありますけども、中でも、JR 津田沼駅周辺、これをしっかりとやっていこうという内容です。皆さんにこれを言うと、「なぜ、JR 津田沼駅周辺だけなの」と言われてしまいますけど、考え方としては、必ず、スポーツチームの中には、必ずエースっていますね。エーススストライカーとか、エースピッチャーとか、あるいは 4 番打者とかありますけど、やはり、そのエースという者にはどんどん活躍してもらいたい、という発想があります。習志野市でいうと税収の面でも、これからどんどん伸びていくというと、やはり JR 津田沼駅周辺というのは、現実的に税収の額が違います。ここの部分は意識しないといけないだろう、ということで、ここでしっかりとお金をキープして、そのお金を各地域にきちっと分配していく、そういう考えを持っています。それで、JR 津田沼駅周辺を広域拠点として、最近では「歩きたいまち」とテーマ付けをしまして、これからの開発に備えたいと思います。ちなみに、建築用途の話ですが、藤崎のこの辺一帯の皆さんは、第一種低層住居専用地域になっていると思います。ということは、家以外は建てられない、ということになっていますから、当然、乱開発みたいなことはないわけです。もちろん、それ以上の物は建てられませんから、それに基づいた税金の計算の仕方とされています。それなりの税金の数え方になります。JR 津田沼駅周辺に行くと、例えば高さ規制がない、何階建てでも建てられるとか、そういう地域があります。そういう所はそれに合わせた固定資産税ということになりますから、とんでもない額の税金になります。そこに例えばマンションを作ります。そこに住む住民は、当然、原価計算から導かれた家賃を払う、あるいは分譲価格を支払うことになりますから、当然、それなりの所得の方が入ります。それで、それなりの所得の方が、それなりの住民税を払う、そういったところでの税収効果。そして、そういった人たちが買い物をする、買い物をするということは、多くいろいろな物を買ってもらえるということが言えるわけですから、そういったところでの商店の活性化、まさに経済循環というものを考える拠点というのが JR 津田沼駅周辺だということでございます。

下に円が書いてあって、先ほどからずっと言っていることですけど、「賑わいの創出」ということは、経済、行政、市民生活に密着しています。この循環が書いてありま

す。先ほど言ったように、外に出て頂くだけで、靴底が減り、服の原価償却が進み、化粧品も減り、髪の毛も切らなきゃいけなくて、というふうに、全部、それぞれその先には働いていらっしゃる人がいるわけですから、そういった循環を作っていく。よって、「歩きたい町」としたのです。歩くためには当然、健康でなくてはいけませんから、健康にも気を使うようになります。健康に気を使うために、いろんな商品が出ていますね。CM でもやっています。それを一つ一つ買うだけで、経済がどんどん膨らんでいく。まあ、こういうことを何回も言っていますが、そういうことによって、税金というものが発生して、税収として入ってくる。さっきから、税金、税金、税収、税収と、現実的なことばかり言っていますが、テレビではなかなかそこらへんのこと言いませんよね。政治家としても、この辺のことはなかなかはっきり言いにくいです。ですから、「賑わいを創出しましょう」とか、「ふれあいをもって交流しましょう」とか、そういう言葉になります。だけど、はっきり言いますと、そういう言葉の根底には、みんな税収が入っています。

北欧のフィンランドで大々的な教育改革が行われていて、目指すべき子どもの姿というのが発表されたのですが、それはもう、ダイレクトですよ。「優良な納税者を育てましょう。」これは、僕の達観ですが、多様化して、法令順守というものが浸透して、いろいろな監視の目がきつくなってきているのと同時並行で、そういった「賑わいを創出」するってことが、いろいろな形で考えられています。特に最近は脳科学です。胃がいっぱいになったから、食べるのをやめるのではなくて、お腹がいっぱいになったという信号が頭から流れるから、お腹いっぱいを感じる、というようなことも含めて、いろんな所で研究が行われているんです。その中で、単に、金だけ儲けるやり方というのは、最終的には絶対に損だよねということも含めて、いろんな研究が進んでいるのです。これを私たちが単に、税金とか税収とか言ったときに、「なんだ金か」と思ったらそこで話が終わってしまう。そうじゃなくて、最近はその先、要するに、どうやったら皆さんが健やかに、もっと言えば、お金が嫌いな人からすれば、お金を意識しないで豊かな生活ができるようになるための、お金の動かし方というのが研究されているわけですね。そういった時代であるということは、私ははっきり感じています。

アメリカの大統領選挙で、きれい事ばかり並べているから、逆に汚い言葉でもはっきり言うトランプさんが受け入れられたのではないかと言われていますね。今、ヨーロッパで右翼政党といわれる人の活躍が目覚ましいのですが、僕からすると、「物事をはっきり言う人たち」に関心が寄せられているんじゃないかな、というふうに思っています。

これから大切なことは、今、多様化の時代なので、いかに違いというものを認め合えるか、相手の立場を考えられるか、だと思っています。それは、対行政、対会社、対人、全部一緒です。今までみたいに境目がしっかりしていません。ジクソーパズルみたいにぐじゃぐじゃになっている状態で、いろいろな物が複雑に絡み合っている世の中なので、こういったタウンミーティングで意見を交換させて頂きて、市政に活かしたいと考えております。

以上で、私からの話とさせて頂きます。あとは質問等に答えさせて頂きます。ありがとうございました。